

# もし、自分の国がなくなったら

教育文化学部 国際言語文化 3年次

G2: 二上 ゆりえ

# 目次

## 1 友達に聞きたいと思ったきっかけ

## 2 友達を魅力的だと感じる点

### 2-1 友達の魅力

### 2-2 私と彼の違い

## 3 予想

### 3-1 愛国心

### 3-2 自分の考えをもつということ

## 4 インタビューについて

### 4-1 全体像

### 4-2 質問項目

## 5 インタビューを終えて

### 5-1 インタビューの様子

### 5-2 インタビュー

### 5-3 成果

## 6 授業の感想

## 1 友達に話を聞きたいと思ったきっかけ

私は韓国人の男友達にインタビューします。彼は、秋田大学の学生です。

彼は、一緒に『JSA』という映画を観た時に、北朝鮮との関係や軍隊についていろんなことを話してくれました。その話から私は、軍隊で訓練する大変さを知り、そのような大変さを乗り越えてきた韓国人の男性のたくましさを感じました。そして、彼の考えを聞いていく中で、文化の違いや教育の違いをもっと知りたいと思うようになりました。これが、インタビューをしたいと思ったきっかけになりました。

## 2 友達を魅力的だと感じる点

### 2-1 友達の魅力

彼を魅力的だと感じる点は、自分の考えをしっかりと持っていることです。私は考えをもっているにも人に話すことがあまりありません。それは、自分の考えていることに自信がないからです。知識が足りず、意見を言うことができない場合もあります。一方で、今まで学び、取り組んできたバレーボール・小学校教育に関することはしっかり意見を言うことができます。そこで、私と彼の違う点が何か考えてみると、それは知識の幅の広さ（スポーツ・映画・政治・歴史・経済）でした。私は、知識の範囲が狭いため、幅広い知識を持っていて意見を言うことができる彼を尊敬しています。社会や政治について考えをもっていることは、友達という範囲を超え、幅広い年代の人々やいろいろな国の人々と話をし合えるため、とても魅力的だと思います。自分にないものをもっているということが、彼に魅力を感じる理由なのかもしれません。

### 2-2 彼から学ぶこと

2-1 では、私と彼の違いについて触れましたが、そのようなことから、私は政治や日本の社会にあまり関心がないので反省しなければならないと思いました。自分の国の政治や経済に関心をもつことはとても大切です。日本人はよく自分の国の歴史を知らないといわれますが、私もそのような日本人の一人であるためこの機会を通して、もっと自分の国に関心をもち、他の国の人に日本のことを話せる日本人になりたいと思っています。

## 3 予想

### 3-1 愛国心

愛国心は、受けてきた小・中・高校の教育が大きく影響すると考えています。特に、日本では昔の戦争や侵略の事実を学ぶ機会がほとんどなく、当たり障りのないことが教科書に記述されています。しかし、韓国や他の国では自分たちの歴史をしっかり学んでいると聞いたことがあります。よって、教育が人々に与える影響は大きいと感じています。また、授業のカリキュラムを知ることによっても、愛国心の違いを知ることができると思っています。図書館で日本の教科書を見せて、韓国の教科書との比較などをして彼について理解していきたいです。

### 3-2 自分の考えをもつということ

私は、彼が軍隊に入っていたことが自分の考えをもつという意識をつくり、彼のしっかりとした意識に結びついていると思います。私が「すごい」と感心していることでも、彼自身は「当たり前」だと言うかもしれません。しかし、当たり前にも「なぜ当たり前と思うのか」知りたいので、自分の考えをもつことがなぜ必要なのか、身近な場面をいくつか想定して、その場面で自分の考えを述べるか、もつか、黙って聞いているかなどを聞いていき、私と彼の違いを明らかにしていきたいと思います。そして、2-1でも述べたように彼の知識の多さが、自分の考えをもつことにつながっているとも予想しています。

## 4 インタビューについて

### 4-1 全体像

はじめは、日本と韓国の違いから入り、最終的に私と友達の違い、つまりはお互いの文化を理解したいです。インタビューではマクロの視点から入りミクロの視点で考えることを念頭において話をしたいと思います。

### 4-2 質問項目

- 1、日本に来る前の日本イメージ（男女含めて）を教えてください。
- 2、日本にきてからそのイメージはどうか変わりましたか。
- 3、周りの日本人学生を見たり、接したりして感じた違いはなんですか。
- 4、それはどうしてだと考えますか、韓国人と比較しながら教えてください。
- 5、学校で勉強してきたことについて質問します。日本の教科書を見てどう思いましたか？
- 6、韓国の教科書との違いを教えてください。
- 7、歴史の授業や国に関する授業にはどんなものがありましたか。
- 8、授業はどのような進め方をしていましたか。
- 9、高校時代までに関心のあった科目とその理由を教えてください。
- 10、 軍隊に入る前とあとで変わったことはありますか。
- 11、 自分に一番影響のあった人物はだれですか。出来事でもいいです。
- 12、 愛国心とは何だと思えますか。
- 13、 愛国心を持つことはなぜ大切だと思えますか。それはなぜですか。
- 14、 今の子どもたちにも愛国心を望みますか？
- 15、 愛国心を持たせるには何が必要だと思えますか。

## 5 インタビューを終えて

### 5-1 インタビューの様子

12月10日の10時半に学生会館のアメニティで待ち合わせをしました。私はいつも会うときと同じように、あいさつを交わし、インタビューについて説明をしました。しかし、用意してきた質問を聞くとき、なんだか改まった感じがして、照れくさくなりました。そして、友達との会話というよりは、あまりよく知らない人と話すような雰囲気でも質問をもしはじめました。一方、友達はいつも通りの雰囲気で気楽に質問に答えてくれました。質

問によっては答えるのが難しいものもあり、予定していた質問を多少変えながらインタビューしました。それから、私が聞かなくても答えてくれたことがたくさんあり、とても充実したインタビューになりました。

## 5-2 インタビュー

私：「日本に来る前の日本イメージを教えてください」

友達：「高校の時、日本のイメージは悪かった」

日本の韓国への侵略記を国史の時間に学んで、そのように思ったようです。日本で日本史とよぶものを韓国では国史というようです。

友：「確かに日本のおかげで韓国は発達した。しかし、それ以上に、日本人には、医学の実験に使われたり、名前を日本の名前に変えられたり、植民地として支配されたり、ひどいことをたくさんされたと学んだ」

このように彼は話しました。このイメージは軍隊の時もそのあとも同じだったようです。しかし、日本に観光に来た時に、日本がきれいな国だと思い、日本人の優しさも感じたようです。彼が日本に勉強を目的に来たのはそのあとで、はじめは山形にいました。その時に、旅行と住むということは違うと強く感じたそうです。

友達が私の質問に対したくさん答えてくれたおかげで、私このあたりから私も徐々にインタビューに慣れてきました。

私：「旅行と住むのでは、どんな違いがあった？」

友：「韓国人は、発展途上国から出稼ぎにきた外国人に冷たくする傾向がある。山形では、自分自身がそれと同じような経験をした。」

私：「秋田の人や学生はどう？」

友：「秋田ではみんな優しい。山形では日本人とあまり接しなかった。でも、秋田ではたくさんの日本人と接する機会がある。それから、日本人は本音を言わないというイメージがあったけれど、今は、他の留学生とも接してみて、日本人だから～韓国人だから～ということではなく、人によってそれぞれ性格が違うと感じている」

私は、国によってではなく人それぞれだという友達の意見に納得した。確かに国のイメージはあると思いますが、友達になり仲良くなればなるほど、人それぞれだということが実感として分かってきます。一般的に、“～国の人こんな性格”と私たちはとらえると思います。しかし、本当に他国の人と親しくなるとその考えはただの固定観念だったことに気がきます。それは、友達が自国の人だけだったときには分からなかったことであり、他の国の人と友達になって初めて分かることだと思います。このような経験こそが国際交流の良さであり、国際社会で生きていくこれからの子どもたちに感じてほしいことだと思います。小学校の教員を目指している私にとっては、国際交流の重要性を改めて感じた一幕でした。

このように友達と私が同じ考えをもっている一方で、違う考え方をしていることもあります。それは愛国心をもっているかどうかです。私は友達がなぜ愛国心をもっているのを知りたいと思いました。

私：「愛国心を持つことはなぜ大切だと思うの？」

友：「う～ん」

抽象的な質問だったと思い、質問を変えました。

## 「もし、自分の国がなくなったらどうしますか？」

私は、国というよりは自分の命が大切なので、生き延びることができればどこに逃げてもいいと思っています。しかし、友達は違います。

友：「もし、今、韓国で戦争が起こったら、絶対に帰って戦う」

私：「どうして？」

友：「国がなければ国民もいない」

私は初めその意味がよく分かりませんでした。しかし、なぜ国を大切に思っているのか、次の2つの話から理解しました。

私：「国がなければ国民もいないってどういうこと？」

友：「ターミナルという映画を観たことある？」

私：「ない」

友：「観て」

私：「えっ!? どんな話か教えて！」

友：「ある国の男がアメリカに向かって飛行機に乗っている間にその国の支配者が変わり、国がなくなった。だから、アメリカについてもパスポートに書いてある国は、今存在していなくて、空港から外には出れなくなった。だから、国がないと国民でもなくなるんだ。」

私はこの話を聞いて、もしそのようなことがあったら自分は存在しているが、無国籍になり、自由に生きていけなることが分かりました。そして、命があるだけではだめだという現実を知りました。

もう1つは、日本と韓国の歴史の違いも友達と私の愛国心の有無につながっていることです。それは以下の質問をした時です。

私：「今の子どもたちにも愛国心を望む？」

友：「韓国では、国史で詳しく歴史を勉強する。それにこれまで韓国は、1000回くらい侵略をされたということも学んでいるから、日本の子どもよりも国の大切さを知っている。だから、愛国心を望むというよりは、もっていると思う」

日本は、韓国のように1000回も侵略されるという経験がありません。また、立場上、侵略されるというよりは、侵略している方です。よって、国を守る大切さを知らず、学校でも教える内容の違い、子どもたちに与える影響も変わってくるのだと思います。それが、友達と私の違いにつながっていると感じました。

友達は、愛国心をなぜもつのかという質問に対して、後日また話してくれました。

友：「高校で侵略について学んだあと、軍隊に行ったでしょ。軍隊に行ったために2年間の自由が奪われた。だから、奪われるものに対する大切さがわかる」

(韓国人の男性は義務として軍隊に行かなければなりません。友達は2年2ヶ月いました。) この言葉がとても意味深いものに感じられました。ここで、矛盾に感じるのは軍隊の経験

で愛国心をもつようになったのに、なぜ自由が奪われたと思うのかということです。しかし、私は、友達の話をしている間に、それは矛盾ではないと思いました。確かに、自由ということを見ると軍隊での2年間は自由が奪われた時間だったと思います。しかし、義務の中で、国を守る大変さや国の大切さを知ったことは事実だと思います。つまり、一時的な不自由よりも愛国心の方が友達の中ではうわまっているのです。

### 5-3 成果

私は友達の中にある愛国心をもっているという文化を知り、自分の愛国心のない文化を変えたいと思いました。私は、このインタビューを通して、お互いの違いだけでなく、相手の考えを取り入れ、新たな考えをもつことができました。自分の国の歴史を知っているかいないか、そして、自分の経験してきたことの違いが愛国心に大きく影響していることを知りました。

また、テーマメモでは、友達が自分の意見をしっかりとっていて、なぜそうなのか知りたいと思っていました。予想では、彼が軍隊に入っていたことが自分の考えをもつという意識をつくり、彼のしっかりとした意識に結びついていると思いました。しかし、直接的な質問はしませんでした。インタビュー終えた今、それは、愛国心をもつと同じように、学校教育と経験が絡み合ってきたものだと思います。また、インタビューの中では映画の話、国の歴史、社会制度などいろいろな分野の話が出てきました。やはりそれも自分の考えをもつ土台になっていると感じました。一時的な出来事が人に影響することもあります。友達は、軍隊の経験だけでなく、積み重なった知識と努力や苦労が影響していると感じました。具体的な例をあげると、私が友達に尊敬している人はだれですかと聞いた時、友達は、公開中の映画の主人公である「チェ・ゲバラ」の名をあげました。普通であれば、身近な人や、教科書に載っているような偉人をあげるとは思います。友達は、その人をあげました。その理由は、他国のために自分の犠牲を考えずに戦ったからだということでした。ここで、今の話と彼が自分の意見をしっかりと持っていることとの関連性をあげると、友達は教育や軍隊の経験により、国を守ることの大切さや大変さを知っています。そして本を読んで「チェ・ゲバラ」がどんな人かを知っています。この実体験と知識が「自分の国でさえ守ることが大変なのに、他人の国を守れるなんてすごい、尊敬できる」という考えを生んでいると思いました。尊敬している人は誰か聞かれて、すぐに答えられるのも、常に自分の考えをもっているからであって、本当にすごいと思いました。そして、彼の考えの中に、常に国を意識しているということが感じられました。“愛国心をもつ”ということは一見抽象的ですが、その裏に隠れているものはとても深いものでした。インタビューから学んだことを活かして、これから日本の歴史を学んだり、より多くの事に興味をもったりして、多角的な視点から物事を考えられるようになりたいと思いました。

## 6 授業の感想

はじめは何を話していいかわからず、ぎこちなく始まったグループ活動も今となっては、会話が弾み、とても充実した時間を過ごせるようになりました。それは、1つのレポートを仕上げるという目標に向かって、お互いにアドバイスし合いながら取り組んできた結果

だと思えます。話し合いの中では、ベトナム・韓国・日本を比較し合いながら多くの事を知りました。そして、他国の文化や社会制度を知り、自国への要望や自国の良さを知りました。また、友達のレポートを見ることで、その人がどんな人かも知ることができたと思えます。

私はこの授業を通して、これまで小学校や中学、高校で体験してきた国際交流がとても浅いものだったと感じました。発達段階や学校のシステム・時間数の問題で仕方がないのかもしれませんが、私はこの授業をとおして、多くのことを学びました。これを教師になった時にいかして、子どもたちに多くの学びの場を与えたいと思っています。



# 相手に信頼させ、しっかりしている兄

## 目次

1. インタビューしたい人
2. インタビューしたい動機
  2. 1:私に兄の昔印象
  2. 2 : 私にとっては兄が大切な人です
  2. 3 : 兄の魅力
3. インタビューについて
  3. 1 : インタビューの時間、場所
  3. 2 : インタビューの内容と雰囲気
4. インタビューの結果、自分の感想
5. 授業について感想

環境応用化学科1年

グエン ティー スエン

## 1. インタビューしたい人は

私の兄です。いま兄はベトナムの大学生で、そろそろ卒業です。

## 2. インタビューしたい動機は

私は日本に来てから3年間ぐらい経ちます。なので、兄と話す機会、一緒に住む機会などがあまりなかったです。いま思い出して、とても、寂しい感じがありました。

### 2. 1. 私に兄の昔印象：恥ずかし性格でした。

小学生、中学生の時、家にも、学校にも あまり皆と話さなかったです。実家には私と楽しみ遊んだけど、兄が友達と遊びに行く時、私は「一緒に連れて行ってほしい」いったら、兄が優しくわらって、「女の子だから実家にいてください」と言うてくれただけ。そして、私の女性友達が実家に来れば、兄が恥ずかしくて、挨拶ぐらいだけして、後どこかへ行っちゃった。だから、友達から「お兄さんは私が嫌なの？」と聞いていました。それで、私は今兄に「どうして昔にそんなに恥ずかし性格があったのか」とインタビューしたいです。

### 2. 2. 私にとっては兄が大切な人です。

私を遊びに連れて行かさなかったけど、私のことをいつも守ってくれた。私と一緒に勉強して、分かるまでちゃんと教えてくれました。母親から叱責するとき、兄が全部自分の責任をもらったから、私はいつも大丈夫だったです。

兄は私にびっくりさせた。高校性に入って、だんだん兄に恥ずかし性格が亡くなった。なので、女の子の日とか、母の日とか、兄はきれいな花を買ってくれた。昔にははずかしで、そんなことはなかったです。そして、皆とよく話しになっていました。買い物とか遊びとか昔と逆で、いつも私を誘ってくれた。それで、もっと兄弟になっています。兄が高校を卒業して、家族と離れて、男らしい人になりました。素晴らしい考え方で、どんなことがあても、あきらめず、乗り越えた（兄は第一回目に大学の試験が落ちましたが、やめないで、次年にもう一回受けました）

兄は私より2歳しかない上ですけど、優しい人、兄らしい人として私に勉強方法や他の人から話し聞く方など、特に両親に喜ばせる方を教えてくれました。兄と話すとき、いつも満足でした。私の話は兄が最後までちゃんと聞いてくれて、同感させる感じがあり、いいアドバイスをくれますから。

3年たって、兄はたんぶんいろいろなことが変わったと思って、この機会です。詳しく話したいです。そして、兄はそろそろ卒業して、就職活動について、どんな風に考えているのか聞きたいです。そして、私はベトナムの大学生活を参加する機会がないから、兄に聞いて、ベトナムとの日本の大学生活がどんな点が違うのか知りたいです。または、

兄の愛していることや結婚することについてもインタビューしたいです。

## 2. 3. 兄の魅力：

### \*私にとって：

私は日本に来て、初めて母親を離れて、外国で住んで、いろいろなことがありました。良かったことがあります、最初は苦しいことがたくさんあって、とてもたいへんでした。日本語ですごく下手でしたから、日本語の授業には、先生まったく日本語で説明して、分からないで、つらかったです、そして、アルバイトも、たいへんでした。その時はいつも、兄がたいせつです。兄と話したり、相談したり、「心配しないで、授業の内容を分からなかったら、先生に聞いてください。アルバイトのとき、周りの人のやり方をちゃんと見て、やったら、大丈夫と思いますから、まだ分からないと、皆に分かるまで、聞いてください、私の妹なら絶対のりこえるよ」というアドバイスをしてくれました。とても良かったと思いました。兄は私と同じ立場(学生さんやまだ若いもの)として、または私のこと(性格や考え方など)をよく知っています。ですから、兄と話したら、いいアドバイスをもらえました。何で話しできました。母より話しやすいでした。母親と話したら、母親に心配させるはずですから、何でも兄と話しました。だから、この機会を使って、兄といっぱい話したいでした。

\*兄を知っている人にとっては：兄はしっかりの人、信じ出来る人、優しい人だと言われまし。

## 3. インタビューについて。

### 3. 1：インタビューの時間、場所など

兄は今ベトナムにいますから、会う、電話などはちょっと難しいから先週の日曜日の夕方に、インターネットでインタビューしました。

### 3. 2：インタビューの内容と雰囲気

私も兄も忙しいから、久しぶり、話しでき、とても楽しく感じました。普通と同じ話しましたが、今回は兄に「ちょっと昔のことやベトナムの大学生活についてことや兄の将来の予定など」と聞きました。

#### \*内容と雰囲気：

##### a. 昔のことについて。

私：兄、どして、小学校と中学校のとき、よく恥ずかしがったの？

兄：(笑) 昔のこと、覚えなくてもいいよ。

私：いいよ、いま、思い出して、とても聞きたいよ。

兄：何だろう、まだ、子供かな(笑)。確か、皆(女の子)とよく話したいけど、話すことが何についていいのか分からなかったから。

\* ) 兄の答えたことから、兄はまだ、少し、恥ずかし性格があると思いました。

b. 大学生活について；

私：ベトナムの大学生活はどうですか？楽しかった？

兄：楽しいけど、妹のことを比べると恥ずかしいよ（小さい声）

私：どして、意味分かりませんよ。

兄：妹、一人外国で、勉強しながら、頑張ってアルバイトして、学費、生活費を払いできる。私は毎月母親からお金をもらって、生活することだよ。

兄の答えからと話す声を聞いて、兄は私のことを分かってくれて、心配していることとよく分かり、とても感動しました。

私：毎月、母親からどのぐらいもらって、生活出来ますか？

兄：7千ぐらい

私：しかし、今何でも高くなって、それで十分ですか？

兄：十分か足りないか言えないけど、きちんと、計算して、ちょうどです。食費が最近高いよ。

私：兄の友達も同じ毎月母親からお金をもらいますか？

兄：うーん。

私：学校は授業の時間が一日の半分でしょう？時間がたくさんあり、アルバイトがみんなやっていますか。

兄：ほとんど、皆がアルバイトをやろうとあまり考えていない、私も（軽く笑）

私：どして、考えていないの？

兄：正しいことを言えば、アルバイトをやりたい人がいるけど、仕事がないし、時給がとても安いよ。または、店でアルバイトをしている場合には先生とか友達があつたら、恥ずかしいと聞きました。

私：そうですか。

兄：それで、アルバイトすれば、皆は小、中学生を教えることを探す。

兄：自国の大学はほとんど首都ハノイとホーチミン city に集まりますから、学生の人数がすごく多い（例え1キロメートル道路に三つの大学がある）で、大きい店がありませんので、仕事を探しにくいの一つの原因でした。または今失業者が多いで、労働者が足りるから、学生さんだったら時給すごく安い。

私：なるほど。

私：アルバイトがなく、時間たくさんあり、頑張って勉強して、奨学金をもらえるようにいいじゃないですか？

兄：それはもっと難しいよ。大学への支援団体があまりない、奨学金があれば、ほとんど本学校から、それで、優先人数が少ないし、もらえるお金が少ないよ。

私：すくないって、どのくらいですか？

兄：一期には5千円ぐらいもらいます。

\*) 私の予想は皆が毎月母親からお金をもらって、深く考えないと思っていました。皆

は母親を離れて、自由感があり、楽しみ新しい大学生活を持っていると予想しました。しかし、兄の答えから、皆は毎月家庭からお金をもらって、楽しいことではなく、しょうがないことだとわかってきました。厳しい周り環境で大学生活をして皆が大変だとわかっていました

私：大学の授業はどうですか？

兄：そろそろ、卒業するが、今心配していますよ。就職活動について授業があまりなかった。

私：日本の大学には選択科目があるよ。ベトナムにはありますか？

兄：選択科目があればいいね。勉強したい科目ができるし、時間も選択で出来る、私の大学はまだない、すべて科目は指定される科目です。

私：毎年流年場合がいますか？

兄：あまりないよ。ベトナムの大学は大学に入るためにとても難しかった、けど、卒業することがまだ厳しくない状態だよ。それで、皆の時間がいっぱい余裕です。

私：皆の時間が余裕言って、授業の時間以外には皆が学校にいますか？

兄：いないよ、

私：学校にサークルとか、団体活動などがありますか。

兄：私の学校はないよ。だから、授業以外は皆が学校にいないよ。あればよかったね。発展途上国だから、教育の側には十分に中心ではなく、学校の基礎物質がまだ簡単で、だから、学生たちからやる気で、深く勉強したい気持ちが取れないことと思いました。またはベトナムの大学に時間割りを改善したほうが良いと思いました。1日の半分の時間（午後、午前）じゃなくて、1日中に時間を分けた法が良いと思います。

c.兄の将来の予定について：

私：そろそろ、卒業しますね、就職活動か大学院を進むか今よく考えていますか？

兄：考えていますよ。大学院へいかないで、外国語（英語か日本語）の承認書がもらえるように集中勉強するか、就職するか、今すごく迷っている。が国語があまりできないだったら、好きなし事が見つかりにくい。しかし、1年か2年ぐらい、外国語を集中勉強すれば、お金かかる。

私：お金お問題は兄考えなくてもいいよ。母と父の意見はどうですか？

兄：妹と同じいけんだよ。お金の問題はかんがせず、いいこと、好きなことをやってくださいと言ってくれたよ。しかし、母親は私が外国語を勉強してほしいという気持ちとわかりました。

私：それなら、これからどうしますか？

兄：好きな仕事じゃなくてもいい、まず就職しながら、外国語を勉強する方法も考えている・

私：大変ですね。

兄：笑いながら、大丈夫だよ、妹と比べると、まだ いいだよ。

さっすが。兄の考え方でした。いつも、母親を心配しないように自分でちゃんと考えてやっています。今ベトナムには卒業者が就職することは難しい状態で、国の会社に入るまで、ある程度お金がかかります。一方ベトナムに外国の会社がだんだん増えていきます。それで、兄は外国を勉強しなければならないと考えていました。しかし、外国語を勉強すると、お金がかかかります。大学を卒業した人として、兄は母親から支援を続けもらいたくないし、自分で責任を持ちたいと考えます。兄はまず自分がしたい仕事じゃなくてもいい、この仕事をしながら、仕事のお金で、外国語や勉強したいことを勉強し続けたいと考えています。

私：あの、仕事以外は結婚するとか考えていますか？

兄：詳しいね（笑）、今は卒業論文など、大変忙しいだから、結婚することなんか考えていないよ。確かに、まだ若いだから。

私：そすると、愛のことはどうですか？

兄：笑って、後で、時間があれば、ちゃんと話すよ。心配しないで（笑、笑い）

#### 4. インタビューの結果について、自分の感想：

普通と同じ話しましたが、今回はきちんと話して、聞きたいことをちゃんと聞いて、書きましたから、兄の気持ち、兄の考えことをよくわかってきました。インタビューした後は私たち、兄弟の仲がもっと良くなりました。お互いに成長して、一緒に頑張るという意識を持っています。または、兄の答えから、ベトナムの大学生活をある程度知っておきます。それで、いま、私が日本に留学できることはよかったですと思いました。日本語を勉強するために、とてもいい機会でした。外国の生活に何でも自分で責任を持ち、考えて、やらなければならないで、だんだん成長していると思います。兄はいつもがんばって、周りの人に考えさせ、やっています。兄のその姿をみて、自分はいい環境で、もっと頑張りたいと思いました。兄は

#### 5. 授業について感想

授業を受けて、良かったと思います。いい機会で日本語を勉強できました。レポートを交流しながら、議論して、文化的で人々の考え方、やり方を勉強しました。m c cのメールについて、とても便利で、いいと思います。授業の目的でインタビューしたい人をインタビューできるし、聞きたいことを聞けました。授業の受けた人は外国人が多いためから、外国の文化を交流できました。

# 他人を配慮する心がきれいな久恵さん

G2 : 金ハノル

## 目次

1. インタビューの動機
2. 魅力的な部分
  - 2-i いつも着ている黒い服
  - 2-ii 微妙な活発性
  - 2-iii 礼儀正しい行動
  - 2-iv ドラムを叩いている姿
3. 自分の予想
  - 3-i いつも黒い服を着ていることについて
  - 3-ii ゆっくり話す
  - 3-iii 音楽同好会のバンドでドラムを選んだ理由
  - 3-iv 礼儀正しい人
4. インタビュー
5. インタビューの結論
6. このクラスについて

## 1. インタビューしたいと思った動機

私は秋田大学に来て、はじめて同じ授業を受けた日本人の友達にインタビューをしました。女の子で、地域科学課程 1年生の嵯峨久恵です。その後、コアサークルの部会で会い、久恵さんの紹介で音楽同好会に加入することになり、いろいろなところで会うことになって、親しくなりました。主に、会って話したり日本のいろいろなことを聞くことになったのが久恵さんで、聞きたいこととかも増えてきました。

そして、チューターになって、留学生の私には他の人より、インタビューがやりやすいと思って、インタビューしました。

## 2. 魅力的な部分

### 2-i いつも着ている黒い服

久恵さんは私と会うときも、出会うときも、「いつも」と言ってもいいほど黒い服を着ています。私が日本事情4の授業で始めて久恵さんを見たときも黒い服でした。それで、「久恵さん=黒い服」のイメージになり、魅力の一部として思うようになりました。

## 2-ii 微妙な活発性

よく黒い服を着、静かな人のようですが活力があるというほうがいいか、微妙に活発です。まるで、外は静かで中は活発性があふれるみたいな何かを感じました。

## 2-iii 礼儀正しい行動

一緒にいる時に見ると、礼儀正しい人で、優しい人のようです。いつも他のひとのことを自分より先に考えるような行動をするので魅力的だと思いました。

## 2-iv ドラムを叩いている姿

久恵さんはドラムを叩いていることを見たことがありました。黒い服を着てドラムを叩いている久恵さんの姿を見ると、黒のイメージと静かなイメージがドラムを叩いている姿に微妙に似合っていて、普通の姿ではわからなかった、別の魅力みたいものを感じました。

黙々にドラムを叩き、そしてドラムを叩いている動作には力があふれているような姿でした。2-iiの微妙な活発性を感じたかもしれません。

# 3. 自分の予想

## 3-1 いつも黒い服を着ていることについて

私が韓国にいる時も黒い服をよく着る友達がいました。その友達が黒い服を着る理由は、黒い服が好きで、黒色が私に似合うから、細く見えるために、などいろいろありましたが、私は久恵さんが黒い服を着る理由はたぶん、黒色が好きで、だと思いました。

## 3-2 ゆっくり話す

ただ、私の考えですが、久恵さんは私と話す時はゆっくり話しています。それは、私が外国人なのでそれを考えてゆっくり話していると思いました。

## 3-3 音楽同好会のバンドでドラムを選んだ理由

久恵さんがドラムを叩いていることを見て、ドラムより久恵さんに似合う楽器はないと思ってしまいました。それで、久恵さんがドラムを叩くことになった理由は、たぶん、自分と似合う楽器だと思って、それとも他の特別な理由があって、だと思いました。

## 3-4 礼儀正しい人

初めて会ったときから、普通の生活で、相手を配慮する姿などを見て、礼儀正しい人かなと思いました。例えば、友達がドアを出るまで開けているとか、雨の日、傘がないとさしてあげるとか、このようなことから礼儀正しいと思いました。そして、それを自分はどう思っているか、と聞いたかったです。

# 4. インタビュー

## 4-1 インタビューの計画

黒色が好きな人とか、黒い服を着ているといつも落ち着いて、静かな人だと思っています



した。それは、私の周りの人が大体そのような姿だったのでかもしれません。

それで、久恵さんの行動とか、性格は黒色が好きな点と関係があると思って、黒色が好きな点から、インタビューを始めたいと思いました。

#### 4-2 インタビュー前

2007年12月7日、朝11時に秋田大学留学生会館分館で会いました。留学生会館分館の1階にある、畳部屋でインタビューをしました。

インタビューの前にインタビューの項目について簡単に説明しました。久恵さんが難しく感じないようにいつもと同じ、友達との会話のように話しました。

思ったより詳しく答えてくれて、たくさん助けになりました。

#### 4-3 インタビュー項目

- I 黒色が好き？
- II 好きなら、その理由を教えて。
- III 話す時ゆっくり話しているが、その理由
- IV ドラムを選んだ理由
- V 自分が考えて、礼儀正しいと思う？
- VI その他（個人的に久恵さんに聞いたかったこと）

#### 4-5 インタビューの内容とコメント

i

私 : 黒色が好き？  
久恵 : うん、黒好き。

久恵さんを会う時はいつもと言ってもいいほど黒い服をよく着ていたので「黒色が好きのではないか」と思いました。思った通り、久恵さんは黒色が好きでした。

ii-1

私 : どうして黒色が好き？  
久恵 : 黒は、普通よりも、自分の体型よりもちょっと細く見えるみたいと大学に入ってから聞いて。でも、やっぱり前からずっと黒が好きだから今日も黒。

久恵さんは大学に入って、「黒色の服を着ると細く見えるよ」とはじめて聞いたと言いました。それで私は、久恵さんが大学に入学してから黒色が好きになったと思いましたが、大学に入学する前からずっと黒が好きだと言ってくれました。

ii-2

久恵 : なんか、黒と白、はっきりした色が好きなのね。  
私 : 原色かな。原色が好き？  
久恵 : うん。でも黄色とか赤とか緑とかそういうのじゃなくて黒とか白とか。青も嫌いじゃない。

久恵さんは黒だけではなく、原色が好きでした。でも、原色の中でも黄色とか赤とか緑ではなく、黒と白が好きだと答えました。そして、黒と白が好きなのもう一つの理由も言ってくれました。私の質問ではなかった部分ですが、久恵さんが言ってくれて手伝いになりました。

### ii-3

久恵 : 黒とか白ってなんか格好いいイメージがあって、だから黒いスーツとかも社会人とか着てるじゃん。あれ格好いいなと思うんだよね。

私 : 例えばサラリーマンかな？

久恵 : うん、サラリーマンとか、ちょっとイメージ悪いけどホストとか。

ここまで来て、久恵さんは黒だけじゃなくて格好よく見える、主に社会活動をしている人々が着ている服のように黒とか白の色が好きだと分かりました。

しかし、今、コメントを書いているうちに思い出したのですが、黒とか白が好きだと言っても、どうして、主に黒い服か、聞きたくなりました。

### iii

私 : いつも話す時、ゆっくり話しているみたいけど普通の友達と話す時もそのように話す？

それとも、私が留学生だから？

久恵 : 私、そうだね。みんな一緒。全部一緒だよ。

久恵さんは私と話す時も日本人と話す感覚で話すので、その速さは自分の中で全然変わらないと言いました。

この質問は私の予想とは少し違いました。私はやはり留学生なので、それを勘案してゆっくり話していると思いましたが、いつもゆっくり話していることを分かりました。そして、これから久恵さんの表情が真剣になりました。

### iv

私 : バンドにはいろいろな楽器があるけど、どうしてドラムを選んだ？

久恵 : はじめは楽器はやらないと思ったけど、みんなやってるし、やりたいなと思って。でも、ギターとかだと自分で買わなきゃいけないじゃん、ピアノはちょっと微妙だなと思ってじゃ、ドラムってみたいな。

そして、もう一つの理由は以前にある楽器を遊びでやったんだけど、それがドラムをやるのに役に立つと思って選んだと言いました。

私は久恵さんがドラムを選んだ理由は自分が好きだから、何か特別な理由があって選んだと思いましたが、それではなかったんです。

### v

私 : いつも、落ち着いている感じなんだけど。でも、微妙に活発に見える。

久恵 : 使い分けかもしれない。隣の人がいっぱいしゃべるとあんまりしゃべらないし、必要な時はしゃべる。例えば、みんな静かだし、決まらなかった時。

久恵さんは昔から、皆がやらないことが好きなのかもしれないと言いました。皆がやらないのは普通ではないから、私の場合、あまりやらないです。なので、久恵さんは勇気がある人ではないかと思いました。

別の方向から考えると、その場の、皆の雰囲気を変えたく欲しかったので勇気を出したかもしれないと思いました。

vi

私 : 私には普通の行動が礼儀正しく見えたんだけど。

久恵 : 礼儀正しいと言われるのはうれしいが、どうなんだろう。幼いころから責任ある仕事やってるからかもしれない。

久恵さんは子供の頃から、学級委員とかをやって来たと言いました。そのような責任感がある仕事をやって来て、行動が慎重になって礼儀正しくなったかなと思いました。私は、家庭の教育が厳しかったかもしれないと思いましたが、それは、つぎの質問で聞きました。

(この質問を聞いた時、久恵さんの声は少し照れているようでした。)

vii

私 : 家庭の教育が厳しかったのではない？

久恵 : 母親の考え方を受け付けているかもしれない。勉強の前に人間として？の感じ？

この答えを聞いて、久恵さんの家庭教育が厳しかったのではなく、幼いころから母親からいい教えをもらって、今ようになったと思いました。「勉強の前に人間になるのが大事だよ」という言葉は私の母からいつも聞く言葉で、他の人から聞いて、少し気持ちが微妙でした。

これで、質問は全部終わりました。私はインタビューをしているうちにとても緊張していたので少し、変な表情になっていました。

## 5. インタビューの結論

久恵さんが黒色が好きだったのは予想通りでしたが、それ以外は、予想とは違いました。予想とは違ったので、次の質問の答えが知りたくなったりしてインタビューがおもしろかったと思います。

インタビューの結果、久恵さんは黒色だけじゃなくて、原色が好きだったというのをわかりました。その理由の中、「黒とか白ってなんか格好いいイメージがあって、だから黒いスーツとかも社会人とか着てるじゃん。あれ格好いいなと思うんだよね。」と答えたことから格好よく見えるための方法として黒色の服を着ているのではないかと思いました。(事実はどうかわかりません。これは、私の考えなので。)

久恵さんは隣の人がいっぱいしゃべる時は、しゃべらないし、必要なだけしゃべると言いました。それで、僕は久恵さんが微妙に活発だと感じたかもしれません。そして、その活発性が別の姿で表現されたのがドラムを叩いている姿だと思います。

しかし、私が一番難しいと思った質問は礼儀正しいと言う質問でした。私も自分が書いた礼儀正しいという表現が正しいかどうかわからなかったので、久恵さんも答えることが難しいかもしれないと思いましたが、思ったより久恵さんがよい答えをしてくれて本当に助かりました。

今度のインタビューで私がわかった久恵さんの最高の魅力は他人を配慮する心です。いつもゆっくり話したり、他の人がしないことをしたりするのは全部他人を配慮する心から出たと思います。外観だけが格好いい人ではなく、他人を配慮する心が習慣になっている久恵さ

んは本当に格好いい人だと思いました。

## 6. このクラスについて

このクラスは韓国では経験したことがない新しい授業でした。いろいろな国の人々が集まって、お互いにアドバイスをしたり意見交換をすること自体がおもしろかったです。そして、インタビュー相手に対してインタビューをすることによって、その人の知らなかった部分を分かったことが一番意味深いと思っています。

このクラスを通じて、授業だけではなく、授業内容以上のことを教えてもらったと思います。

# 日本事情

## 「哲学と英語の関わり」

教育文化学部  
地域科学課程

1年次 張成日

# 目次

1. インタビュー相手の紹介
2. 動機
3. テーマメモ1のディスカッションについて
4. インタビューの日程
5. インタビューの予想
6. インタビューの質問
7. インタビューの内容
8. インタビューの結果
9. インタビューの感想
10. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

日本事情

グループ2

教育文化学部地域科学課程1年次

張成日<ジャンソンイル>

## 1. インタビュー相手の紹介

私がインタビューしようと思っている人はT大学で先生として勤めています。インタビューしたい先生のお名前はA先生です。A先生は私の金曜日の西洋哲学史の授業の先生です。そして、友達の卒業論文ゼミの先生です。

私はA先生の授業を後期に始めて受けているし、そして、一回も話し合った事がないので、インタビューしたいと思います。

## 2. 動機

哲学というものは誰かが聴いても難しい学問だと思います。私は中学校、高校の時に少しでも哲学という学問に興味がありました。それで、韓国の大学にも哲学学科に志願した事もあります。

せっかく、日本に来て日本の大学に入ることができたし、教育文化学部で哲学授業を受けることができました。それで、私は何も思わなく、ただ、哲学しかも日本の哲学を学べる機会ができて嬉しかったです。もちろん、哲学の本は日本と韓国は同じだと思いますが、その本を読んでからの考え方、自分の考察は成長してきた環境によって違おうだろうと思ったので、あの授業で日本人はどんな考え方を持っているかが楽しみでした。

学期が始まって西洋哲学史の授業を受けましたが、その時先生は“この授業は英語本を日本語で訳して授業を進めます。”と言われました。しかも、授業中に私がいまいち分からないかもしれませんが、内容より英語の方がもっと優先されているように見えました。

私はまだ日本語も完璧ではないし、しかも、私にとって第二外国語の日本語ではなく第三外国語の英語なんて思ってみませんでした。哲学というのは自分の国の言葉でも難しそうな学問なのに第三外国語・・・私はびっくりしました。

今まで6から7回の授業がありました。私はその中で3回ぐらいサボりました。完全に興味を無くしました。

書いた通り授業は日本語と英語を混ぜて行います。日本語も下手な私にとっては本当につまらない授業です。それで、私はトイレに行きますという嘘を付いて外でタバコを吸ったり音楽を聴いたりしました。こんな風でサボってその日学校内で会いましたがお互いに避け合いました。

私は変な人が好きです。変な人と言っても頭がおかしい人ではなく、一般人が考えられない事を考えたり、それを行動で移す人々です。なぜ、いきなり変な人が好きという話をするかという、上で話した通りA先生は英語で授業をします。しかも、私から見ると哲学という学問より英語の文法の方が重視された事もあります。だから、私だけではなく、ほとんどの学生は今もサボっているそうです。友達の話によるとA先生は自分の授業にサボっている学生たちに対して先生は人のせいより天気や寒さに回してしまったそうです。普通の先生や人には出られない答えだと思います。

しかし、私とA先生は年齢の差がなさそうです。同じぐらいの年で、現在の大学生と東大卒業生の先生、誰かが第三者の立場で見たら、若い時勉強しなく今勉強している私に何か言うはずだけれども、A先生はちょっと違う思いをしてくれるのではないかと思います。

私の今の年は29です。それで、T大学の普通に学生たちと違って社会経験もあるし、韓国の男なので軍隊の経験もあります。ちょっと生意気な発言かもしれませんが、今の学生たちはみんな子どもに見えます。このインタビューは日本事情の課題ですが、インタビューするならば、私は自分よりちょっと年上の男、そして、私の人生は普通の人と違う人生を生きてきたと思っていますので、A先生だったら一般人の普通の人生通りに18歳に高校卒業して大学に入って、そして、卒業して今の先生になるまでに生きてきたはずなので、インタビューしたいと思います。

### 3. テーマメモ1のディスカッションについて

今週の日本事情の時間に先週自分が作った物を持ってきましてみんなの前で発表しながら、質問したり、答えたりしながらディスカッションしました。

私はみんなに質問された事は動機が面白いからインタビューした後も楽しみですという質問というかそんな事ばかり聞かれました。

特に何故その人を選んだか？本当に聞きたい事やインタビューを通じてその人の魅力やその人について知ることができるか？など色々な質問を受けました。そして、自分が全然知らなかった部分についても聞くことができ良いディスカッションでした。

だから、私はどうしてA先生を選んだのか、もっと楽なインタビュー相手は沢山いるのに、なぜA先生かをインタビューを通じて話したいです。

### 4. インタビューの日程

2008/12/12 午後一時二十分にA先生の研究室で話し合うことにしました。

### 5. インタビューの予想

まず、インタビューの相手が親しい友達、家族や少しでも話し合った相手ではなく、自分の授業で教えている先生ということが他の学生よりちょっとプレッシャーがありました。

私のグループ員たちは友達が三人、家族一人をインタビューすることにしましたが、私一人は先生をインタビューすることにしたので質問についても他のグループ員より神経を使わなければなりません。私はインタビューの時先生自身の過去や趣味などより、何故今授業の方法が英語を使っているか、そして、そんな方法なりのこだわりがあるかについて話したいのでそこについて多くの話になると思っていました。そして、今哲学を教えている先生なので他の人よりもっと深く話すことができると思いました。

### 6. インタビューの質問

- 自分のプロフィール&自己紹介
- 好きな物&好きな事
- 自分の学生時代を話してください。〈どんな学生だった？、人間関係？〉
- 学生時代に一番頭に残っている思い出とは？
- 何故哲学という学問を選択しましたか？
- 自分が考えている哲学というのは？
- 今教員になったのは小さい時からの夢でしたか？
- 今の授業でしている英語と日本語を混ぜてする授業についての自分の考えや目的
- その授業を通して学生たちに伝えたい事は？
- 自分の目標

### 7. インタビューの内容

『自分のプロフィール&自己紹介』の質問に答えてもらいました。『A、三十二歳、男です。T大学教育文化学部で哲学と西洋古典学〈古代ギリシャ、ローマ文化〉を教えています』私は一緒に授業の友達にA先生は東大出身ということを知ったので自分の紹介する時必ず自分の自慢を言うと思ったので私にとっては以外でした。ほとんどの人は自分を自慢したい部分があると思いますが、A先生はプロフィールと書いてあった部分にただ自分の名前、年齢、性別、職業しか答えてませんでした。

『好きな物&好きな事』の質問に答えてもらいました。『研究以外では、クラシック音楽の演奏〈ピアノ、ヴィオラ〉と鑑賞です。』この答えを聞いてやはり、東大出身の先生だなと思いました。私の聞いてた目的には今までずっと勉強の連続だったのでちょっとでも遊びたい気持ちがあるかどうかについて聞きたかったのですが、予想よりちょっと違う答えが出ました。



『自分の学生時代を話してください。〈どんな学生だった？人間関係〉』の質問に答えてくれました。『オーケストラに入っていました。そして、演奏会は年三、四回ぐらいだったし、大学の時もクラシックが好きでオーケストラに入りましたが、その時は部活室に寝て、朝起きて学校に行ったりすることが多かった。人間関係については自分はそんなに友達を作るスタイルではないから、部活の時の友達と今まで連絡しながら仲良しの関係を続けている。』

『それでは、東大という大学に通ったそうですが、東大は日本一だと知っていますが、東大に入るために塾は通いましたか？』『高校三年生に夏休みの時最初で最後に通ったことがある。』と答えてくれました。

まず、韓国人の感覚では東大というところは韓国では韓国一のソウル大学と同じ感覚です。韓国は教育熱がどの国よりも高いです。だから、国一の大学に入るためには高校の時代にいろんな塾に通ったり個人レッスンを受けたりすることが当然な事だと思っていた私にとっては衝撃的な答えでした。そして、自分が好きなことについてはずっと続けていくのがすばらしいと思いました。インタビューしたA先生もいわゆるエリートだと思っているが、ずっと勉強していたのではなく部活も頑張ったことも分かりました。

『学生時代に一番頭に残っている思い出とは何ですか？』『大学三年生と四年生の授業の時古典ギリシャ語とラテン語の講読（その授業にはギリシャ語の本とラテン語の本二冊を一時間に四ページずつ読んだが、予習をしなければ読めないから何回も授業をさぼったことがある。）』と答えてもらいました。私はやはりエリートだなあと思いました。私自身そして自分の周りにはこんな人がいないので、びっくりしました。

『何故哲学という学問を選択しましたか？』『東大のシステムは一年生と二年生の時は学部生なので自分の選修は三年生から勉強ができる。高校の時哲学というのは全然興味はなかった。でも、大学に入ってラテン語、ギリシャ語など語学に興味が出ていろんな本を読んだがその時までは哲学という学問は真面目な人しかできないと思っていたが、偶然にプラトンの本を読んで興味が出て大学院から哲学を勉強することになった。』と答えてくれました。私も韓国で高校を卒業して大学試験を受け、S大学の哲学科に合格しましたが、もしかして、私が哲学科を卒業して何ができるかと思った事がありました。哲学という学問は昔からあまりお金と関係なく、物質的な豊かより精神的な豊かを求める学問だと思って誰でもできる学問ではないと思っていました。私は小さい時から夢がずっと変わってきました。先生も小さい時から自分は哲学を勉強して先生になるつもりではなかったと思います。やはり、夢や自分がしたいことは時間が経てば経つほど現実に合わせて変わるものだなと思いました。

『自分が考えている哲学というのは何だと思えますか？』『思い、考えなどの繰り返し』だと答えてくれました。この答えを聞いてやはり哲学先生だなと感じました。

『今先生になったのは小さい時からの夢でしたか？』『いいえ』『それでは、小さい時の夢は？』『先生になろうと決めたのは大学院生の時だった。中学時代と高校時代には夢はなかった。その時は自分が大人になってちゃんと社会生活ができるかどうか心配だった。』やはり、普通の人間ではなかったです。人間というものは夢がないと生きられないものだと思っていますが、先生の『小さい時は自分には何か足りないと感じて社会に出てちゃんと生活ができるかについて心配だった』という答えは普通の人は答えられないと思いました。

『今の授業でしている英語と日本語を混ぜてする授業についての自分の考えや目的』『学生たちがちゃんと哲学について分かって欲しくて英語を混ぜて授業を行う。英語にはいろんな意味がある。そして、日本語翻訳文には出てこない自分なりの理解が必要だ。だから、英語を混ぜてしている。人間というものは言語に影響を与えられている動物、向こうの文化、思想を理解するためにはその言語は不可欠な事だと思っている。そして、授業には未来教員になりたい人が受けている。もしかして、その人たちが教員になって学生たちに必ずソクラテスやプラトンなどいろんな哲学者のことを学生たちに教えてあげるはずなので、学生に教える前に一回は哲学者の原書を読んでほしい。』と答えてくれました。私も日本語を勉強する時韓国語では訳しても日本の文化的な言葉遣いで韓国語の訳した事としては理解できないことがありました。もちろん、私は学生一人一人にそんなこ

とを期待している先生にちょっとむかついたが先生なりの決まりではないかなと思いました。

日本に来る前に韓国では理解できなかった日本の文化を日本に来てからすぐ理解できたようにA先生もそんなことを学生だちに話したかったのではないかなと思いました。

『それでは、授業の時に原書を読むのはこんな理由というのは理解しましたが何故英語の文法まで教えていますか？英語の文法は英語先生が教えていると思っけていますが』『昔の学生は英語の文法はちゃんと学んだが、今頃の学生は会話中心で学んでいるから文法がたりないと思う。文法から理解できないと原書に書いてある内容が分からなくなるので、あまり教えたくないけどしようがない。』と答えてくれました。

こういう事について先生も英語はもちろん英語の授業に学ばなければならない事なんですが、学生たちが先生、自分が思ったよりレベルが低くて文法まで教えなければ文章全体を理解できない部分があるという事で文法まで教えていると言いました。ここで私はA先生が哲学を学生たちにちゃんと理解してもらいたい分かりました。秋田大学だけではなく全世界の学校や塾など先生は溢れるほど多いですが、自分が熱情を持って学生を教えている先生は何人いるかと思いました。先生は学生が自分が教えている科目やことについて興味を持つようにするかが大事だと思っています。それで、A先生は自分と全然関係ない英語の文法まで学生に教えて哲学を伝えたいと思いました。私は学生が先生の熱情を悪く思わないようにしたらいいいと思いました。

『自分の目標』『考えている事はないですが、時間が経っても今考えている事を諦めないで続けていくのが目標。＜考えの繰り返し＞』と答えてもらいました。この答えを言われたやはり哲学の先生だなと思いました。正直言って自分の目標というのは今よりもっと成功など、大きいことが普通に考えられると思いますが、「考えの繰り返し」なんて私にとっては難しすぎです。

## 8. インタビューの結果

まず、思ってた以上に良い雰囲気でした。先生と学生の関係ですが、インタビューの時は先生と学生の関係より人間対人間のインタビューだったと思いました。そして、先生の年と私の年の差があまりないので年代を理解することもあったし、同じ時代を暮してきたのでお互いに理解し合いました。

## 9. インタビューの感想

インタビューの前にはちゃんと行けるかどうか分かりませんがインタビューを終えて振り返ったらよくできたインタビューでした。でも、予想した面白いインタビューより真面目なインタビューでした。インタビューをする前、テーマメモを書く時は本当に面白くいろんな話ができると思ったが、本番の時には真面目なインタビューだったと思いました。

インタビューを終えて多くのことについて気づいてました。やはり、韓国と比べて日本人の学生は部活に頑張っている事でした。A先生についての予想は高校の時勉強ばかりで友達もあまりいなさそうと思いました。でも、先生は勉強と同じぐらいに部活も頑張ったし、高校の時の部活友達と今まで連絡も取りながら交流しているのがビックリしました。

人間というものは自分がしたいことを自由にするのは難しいと思います。A先生は自分の夢(男として社会生活をする人間としてどんどん上に昇ろうとする事)より自分が好きな本や論文などしようとすることを聞いて凄かったと感じました。

## 10. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

私は秋田大学に入って二回目の日本事情です。前期は宮本先生の日本事情ですが、前期には授業の15回の中で班を作って無言劇や発表をしました。でも、その時は3週に1回、班が変わって同じ班の日本人の学生とは深く知る機会が少なかった。少し、親しくなろうとしたら他の班になってしまった。また、他の日本人の学生と課題の準備をしなければならなかったです。でも、今回の日本事情は最初から最後まで同じ人たちで、変わらなかった前のような心配はありませんでした。

そして、課題なんですが授業の最初6400字と言われたときは本当にびっくりして自分が授業の最後に6400字を書くことが出来るかと疑ってましたが、インタビューの動機から最後、結果まで書いてみたら本当に書くことが出来たことで驚きました。一緒の班の人たちも自分の字の量に驚いたそう

です。

そして、インタビューの事です、いきなり選んだインタビュー相手で、しかも、今まで知り合った人、友達ではなく一回も話し合った事がない授業を教えてもらっている先生だったので最初は怖いというか、時々しました。

インタビュー相手の決定、どうやってインタビューするか一緒の班の友達同士の話し合い、そして、約束、インタビュー、結果について話し合い、今考えてみたら凄く多い事をしたのに授業が始まって6ヶ月本当に早かったです。そして、全然知らなかった人をインタビューを通じて知っていくのがこんなに面白く、良いことだったかなと振り返りました。